

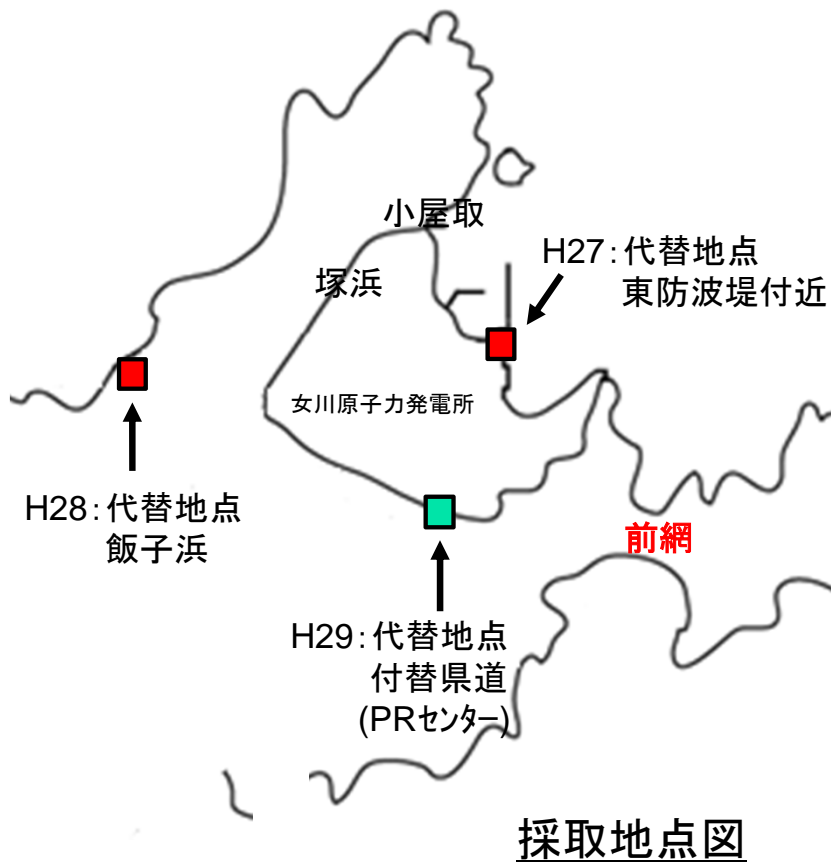


ヨモギ(前網)の代替地点での採取について

平成29年11月 9日

東北電力株式会社

1. 代替地点での採取



- ヨモギ（前網）の採取が年々困難になっており、2年続けて代替地点で採取（平成27, 28年度）。
- 対策①
発電所周辺に自生しているヨモギの生育状況調査
⇒今年度も前網においてヨモギの群生を確認できず。
- 対策②
付替県道（PRセンター）での植栽を実施
⇒植栽したヨモギは順調に成育（群生）。
- 宮城県環境放射線監視センターと調整のうえ付替県道で植栽したヨモギを採取。

2. 付替県道における植栽の状況

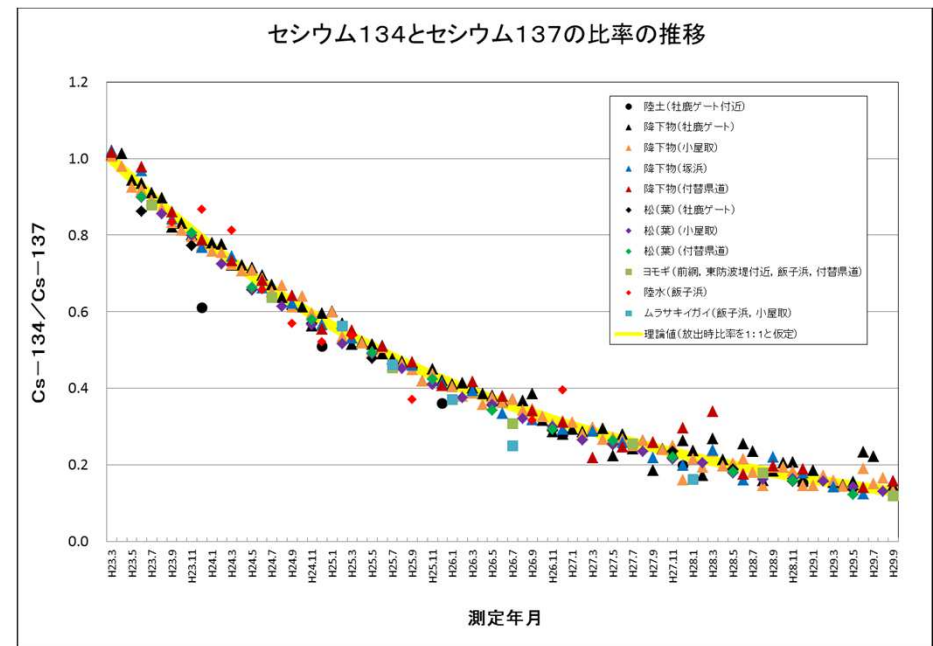
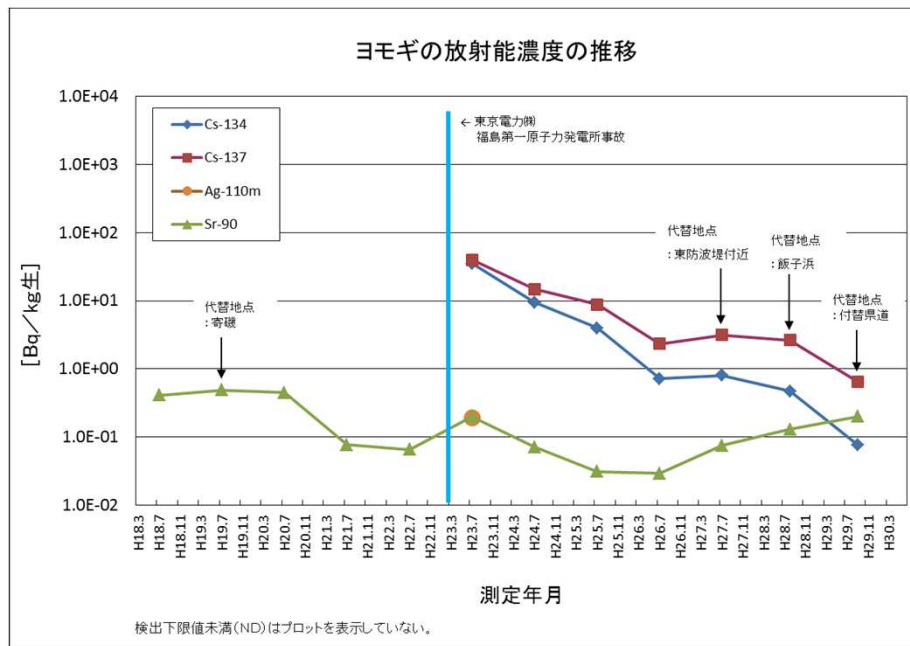
付替県道（PRセンター敷地内の一角）に約20m×6mの範囲でヨモギの植栽を実施し、50cm前後のヨモギを採取。（除草・種蒔は4月，採取は9月に実施）



撮影日 平成29年9月19日

3. 代替地点の測定結果

セシウム134とセシウム137の放射能濃度が過去数年と比較して低めとなっているが、セシウムの比率が他試料と同様、ほぼ半減期通りに推移していることから、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響と考える。





4. まとめ

1. 前網について、ヨモギの採取が出来ない状況が3年続いている(平成27～29年度)。
2. 今年度、付替県道(PRセンター)に植栽したヨモギが順調に生育(群生)したことから、次年度以降も継続的に採取できる見込みがある。
3. 今後、ヨモギの採取地点を前網から付替県道に変更する方向で検討を進める。